

USD -Underground Scriptwriter DAO-

第一期 ドラマ・シリーズ企画

エイジ・スナッチャーズ

—黄昏を運ぶ者たち—



Main Writer

やなぎ(@ieitsu)

荻安理紗(@ogiarisa)

和泉(@izumiscript)

第一話「奪われた歳月」パイロット版脚本



Copyright ©2023 USD (Underground Scriptwriter DAO) All rights reserved.

『エイジ・スナッチャーズ』－ 1話「奪われた歳月」パイロット版脚本

1 バリ島の全景 ー 昼

バリ島。風光明媚な山々と印象的な水田、世界遺産の寺院、美しいビーチ。海を見下ろす絶好のロケーションに建つ絢爛豪華なチャペルがある。

2 チャペル・中 ー 昼

窓の外には紺碧の海と一点の曇りもない青空が見える。

完璧な結婚式日和に盛大な式が始まろうとしており、数多くの参列者はそれぞれが派手なドレスやスーツで、皆自分の美しさを競いアピールしているかのよう。

厳かに鳴り響くウェディングベルと共に、入場ドアが開き新郎新婦が入場する。大理石のバージンロードを歩いてくるのは、理想の容姿を体現したかのような若き美男美女。

参列者たちが一様にスマホを構え、祝福の言葉をそれぞれに囁し立てる。

参列者のノリは軽く、美容業界特有の雰囲気を感じさせる。参列者のスマホでは「#最高の結婚式」「#美容界の頂点」などのタグと共にインスタへのアップが行われている。牧師の前へとやってくる新郎新婦。

牧師姿に扮した時嶋彼方（28）がニッコリと微笑んで一礼する。

3 チャペル・中 ー 続き

牧師の時嶋が主導し、賛美歌が歌われている。たどたどしくも歌っている参列者、スマホを構えるものも。

4 チャペル・中 ー 続き

時嶋が誓いの言葉を読み上げている。

時嶋

それでは、誓いの言葉を。新郎細谷雅紀、あなたは健やかなるときも、病めるときも、喜びのときも悲しみのときも、そして年老いたときも.....、ここにいる亜梨沙さんを命ある限り愛し続けることを誓いますか？

新郎

(想いのこもった顔つきで)
誓います。何があろうと！

次に新婦への声かけが始まると、時嶋はポケットへ手を忍ばせる.....。

新婦の宣誓が終わり.....

時嶋

指輪交換を行きましょう

時嶋が促し、指輪交換が始まる。

新郎と新婦は見つめ合い、お互いに指輪をその指にはめていく。指輪交換が滞りなく進んでいく。

参列者全員の視線が新郎新婦に注がれている中、一瞬、何か手を動かした時嶋。

感激しているのか、俯いているままの新婦。新郎は晴れ舞台での指輪交換の余韻を味わうように立ち尽くしている。

時嶋
.....誓いのキスを

盛り上がる場内。

新郎が俯いたままの新婦に手を伸ばし、ゆっくりとベールアップする。

新婦の顔。ゆっくりと顔を上げ新郎を呆然と見つめるその顔は、80代と思われる皺くちやの老婆へと変貌していた。

新郎
！？ う、うわあ！！

驚愕の表情で思わず新婦を突き飛ばす新郎。

尻餅をついた老婆姿の新婦は、ぽかんと口を開き新郎をただ見上げている。

異変に気づいた参列者たちから悲鳴が上がる。

訳も分からず後退りながら思わず逃げ出す新郎。

新婦はハッとして立ち上がり、よろよろと追いかけてようとするが転んでしまう。

参列者
(悲鳴を上げ)
亜梨沙さんが.....!

間近にいた参列者のスマホを奪い、インカメラに切り替え自分の顔を見る新婦。

そこに映っているのは白髪に皺まみれの老婆の顔。インスタライブ中だったがハートの連打が止まる。思わず卒倒する新婦。

式場内は騒然とし皆がうろたえている。

時嶋は表情を緩めると、その隙にそっと姿を消した。

5 岩場の海辺 ー 夕

立ち尽くす時嶋。

フラッシュ

指輪交換のタイミングで参列者の視線が新郎新婦に集まる中、誰にも見えない死角から新婦のドレス越しに暗器を突き立てる時嶋。

フラッシュ終わり

時嶋は沈みゆく夕陽をただ見つめている。物思いに耽る表情。

やれやれといった様子で、牧師服の上着に手をかける時嶋。そして牧師服とカツラを海へと乱雑に脱ぎ捨てる。それらは岩場の深い海に飲み込まれていく。

シンプルな服装に戻り、ため息をつく時嶋。

水平線に太陽が沈み、辺りが暗くなっていく。

6 タイトル：エイジ・スナッチャーズ -黄昏を運ぶ者たち- 1話「奪われた歳月」

7 スナッチャーズのアジト ー 夜

郊外に建つ古びた昭和の豪邸。

8 スナッチャーズのアジト・リビング ー 夜

古臭い昭和風のリビング。豪華だった当時の調度品がしつらえてある。それとは裏腹に、最新ガジェットでデスクトップとブラウザが壁に投影されている。

椅子に座った水咲 依子（肉体年齢25/実年齢64）が美顔器を熱心に顔に当てながらモニターを見ている。

隣に座る夏井 暦（肉体年齢45/実年齢11）は横にトマトジュースのグラスを置き、時折ペン回しをしながら、ノートにシャーペンで化学反応式を解いている。

隅に立っている浅暮 十干（肉体年齢11/実年齢73）はスキットルで度数の高いアルコールを嗜んでいる。赤ら顔。

時嶋は手元のガジェットを操作しながら、

時嶋
.....これで依頼者の恨みは晴らした

SNSのインフルエンサーの呟きが映される。

「有名美容外科医同士の結婚式で新婦が突如老け込む？ 整形が崩れたのではと話題に」とあり、結婚式で参列者が撮影した動画が添付されている。

突如老婆へと老け込んだ亜梨沙が参列者のスマホを奪い、インカメラでアップになるインスタライブ時の映像。

呟きの続きには、「ちなみに昨年、彼らが高額で販売していた美容器具で利用客の顔が焼け爛れる事件が続出。外出できなくなった女性も。クレームに一切対応せず逃げ切りに成功」と。

被害者の呟きが、焼け爛れ見るも無惨な顔になった写真と共に紹介されている。「絶対に許さない」と。

続くコメントでは、「新婦もどうせ整形」、「整形モンスターの化けの皮が剥がれた瞬間」「ざまあ、お前も苦しめ」など。

依子
行き過ぎた美と富への欲求は人を滅ぼす。これはまさに現代人への警鐘ね

(と言いながら、美顔ローラーにより力を込める)

テロップ：水咲 依子 実年齢64歳

夏井
なんで中身が空っぽなのに、器だけ磨こうとするんだろうね。全く理解できない
(美顔ローラーの手が止まる依子)

テロップ：夏井 暦 実年齢11歳

依子
(時嶋に向かって)
それよりひとりでバリって。何で置いてけぼりなの？ 信じられない。あー行きたかったあ

時嶋
(うんざりした様子で)
遊びじゃないから

依子
でも連れてってくれたってよかったじゃない。バリ島、バブルの頃は良かったわあ。咲き誇るプルメリア、毎日フラワーバスに入って――

浅暮
(ぶつぶつ言い続ける依子を遮るように)
で、手掛かりになりそうな書き込みは？

テロップ：浅暮 十干 実年齢73歳

コメントをスクロールする時嶋。

時嶋
まだ見当たらない.....

浅暮
(ため息をつく)

時嶋
.....だからって、他に方法も無い

夏井
こんな悠長なことしてられるの？ 別にいいけど
(と、またノートに向き合う。)

浅暮
じゃあお前が何か代案を出してみろ

夏井
(ノートに向かったまま)
それはボクのテリトリーじゃない

浅暮
 これだから今の子供は.....
 (古いジッポを取り出し、タバコに
 火をつける)

夏井
 それ、50年前から同じこと言ってない？ も
 う昭和じゃないんだよ、お爺さん。あとここ禁
 煙

浅暮
 はあ？ 大事なことは何回言ったっていいだ
 ろ。チッ、今から移動するんだよ

時嶋
 また依頼者はやって来る

夏井
ボクは研究を続けるよ

浅暮
 ああ、口より手を動かしてくれりゃいい。大体

依子
 今は高級リゾートばかり、90年代から人も
 増えちゃったけど.....あの頃のバリ島、思い出
 すわあ

時嶋
 どこかで必ず奴らに繋がるはずなんだ.....。逃
 げ切りは許さない

依子と浅暮、夏井はそれぞれ勝手に喋っている。

時嶋
 (他のメンバーの方を向き)
 って、聞いている??

テロップ：時嶋 彼方 28歳

銘々勝手な行動を始めているまとまりのないメンバーたち。
 うんざり気味の時嶋。

夏井がノートに熱中するあまり、動かした腕が当たってトマトジュースのグラス
 を倒し、テーブルの上に溢れてしまう。

時嶋
 あーもう、気をつけて。あとタバコは外で！
 (夏井、浅暮に向かって)

他のメンバーが我関せずの中、いち早く付近にあったタオルを取り、グラスを立
 て直しノートが汚れる前にトマトジュースを拭きとる時嶋。

時嶋M
 (ひとしきり拭き取り手を止め。グ
 ラスに少なくなったトマトジュ
 ースを見つめ)

"年齢変化"。俺たちは闇に葬られた技術を使い、依頼人の恨みを晴らすため年齢を奪う。次の依頼人は.....

部屋の一角では、友禅菊の束が飾られている。

9 点描・東京の街角 ー 夜

様々な年齢の人々が行き交う繁華街の夜。

街頭モニターのニュース。

アナウンサー

少子高齢化の特集です。日本の人口は減少し続け、昨年度の減少幅は過去最高となりました。出生率は遂に0.97と1を切り、政府は大規模な少子化対策を発表していますが、内容に乏しく、効果は上がっていません

別の街頭のモニターで流れる美容系のCM。

「若さは永遠じゃない。でも、作ることは出来る。長い人生に、美しい若さを」などと若さを賛美している。

そのモニターの下を歩くパパ活らしき中年男と若い女性が、レストランへ入っていく。「ミシュラン掲載店だけどカジュアルだね」「えーすごい嬉しい」

レストラン内で騒ぐ子供を横目に、舌打ちと共にスプーンの尾で机を叩く初老の男。

厨房では60代の男性シェフが、険しい顔で若い男性を頭ごなしに叱っている。

窓の外に見える大通りでは、警備員が工事箇所の車両誘導を行っている。

10 大通り ー 夜

村田満男（44）が疲れた顔つきで警備員服に誘導棒を持って立っている。工事中の片側車線の入り口で車を停めている村田。

停まっている車からの激しいクラクションが鳴り響く。理不尽な行為にも身振り手振りですいません、もう少しと伝え頭を下げる。逆側を確認し、ようやく誘導棒を上げ、また頭を下げて車を発信させる。

11 大通り ー 夜

村田が道端で警備員服を脱ぎ着替え始めている。寒そうに身体を震わせながら。道に置かれた大きめのスポーツバッグと警備員棒。もうひとりの警備員、早川（31）が寄ってくる。

早川

おつかれさまです

村田

おつかれ、今日も冷えるね

早川
この時期のアスファルトはキツイっすね。足元から寒さが来る

村田
(スポーツバッグから出した年季の入った服を着込みながら)
首、手首、足首を温めろってね、それでも限度があるよな

早川
びっくりした、クビって。縁起悪い

村田
はは。そうだな、おれたちには禁句だな.....
(自嘲気味な笑みを浮かべる村田)

力ない会話を交わすと、帰り支度を終え、その後は無言でトボトボと歩いていく村田と早川。

12 株式会社みさき警備・社員寮 一 夜

昭和に建てられたであろう古い建物。

13 株式会社みさき警備・社員寮・食堂 一 夜

疲れた様子で入ってくる村田。

食事を受け取り、ひとりで着席する。

安っぽいプラスチックの食器。ご飯と、キャベツにアジフライ、味噌汁に数切れのお新香の定食。

そこへ別の同僚、河野(36)がやってくる。

お盆を持って村田の対面に座る。怪訝そうな村田。

河野
村田さ〜ん、今日もアジフライっすね、この食堂。週3でアジフライじゃないすか？

村田
どうした.....？

河野
いやその、また5万負けちゃって。金ない時ほど勝てないの何なんすかね

村田
(ため息をつき)
金はあるところに集まるんだろ。嫌んなるよ

河野
(パチンコのハンドルを回すジェスチャーで)
無いから打つんすよ

村田

.....

河野

何でうちらみたいのに勝たせてくれないんだか、神様は。不公平すぎるでしょ
(村田のお新香を奪おうとする)

村田

いい加減やめたらいいだろ
(箸でそれを防御し)

河野

ちえっ。せっかくの楽しみじゃないすか!?
それに、必勝法聞いたんで

村田

必勝法?

河野

打つときにお金が無いのを見せるんすよ、財布もう空っぽなんで勘弁してくださいーって

村田

誰に?

河野

神様

村田

.....

河野

冗談。監視カメラっす、店員が見て設定甘くしてくれるんで

村田

はあ.....

河野

だから、頼みます! 3万、勝ったらすぐ返すんで! 長い付き合いじゃないすかあ

河野の言葉に、村田はまたか、といった顔で小さく舌打ち。ひとり黙々と食事を進めている。イライラを募らせるようにフライにソースをびしゃびしゃとかける。せっかちな食事。

河野

ほんと、絶対勝てますから

村田

あのなあ.....おれだって借りれるなら借りたいよ。

河野

ちっ

河野、不貞腐れお盆を持って別の席に移動する。

村田
(うんざりした笑みで)

.....

食事を再開する村田。食堂の隅にあったテレビでニュースが流れてくる。

アナウンサー
人生100年時代に対応するため、政府が1兆円を投資し推し進めるリスキリング政策。その第一歩として、大手人材派遣会社ペルソナによるDX人材育成の支援施策が発表されました

村田は立ち上がり苦々しい顔で近くにあったリモコンを手に取りテレビを消す。

そして席に戻ると、味噌汁をご飯にかけて一気にかき込む。

14 株式会社みさき警備・社員寮・村田の部屋 ー 夜

4畳半ほどの部屋。

蛍光灯は切れかかり薄暗く、年季が入って黄ばんでいる壁紙。簡易的なベッドにはごわごわになった布団。机の上にはテレビと自己啓発本が数冊置かれている。「40代からの逆転! 資格ガイドブック」「ワクワクする思い通りの人生の過ごし方」など。他には物がほとんどない。

ベッドに入っている村田。枕元にあった自己啓発本を読もうとしているが、疲れ切っている様子でそのまま寝入ってしまう。

15 高級料亭内 ー 夜

広い座敷の部屋に、大林煌三(75)と角元顕(65)、政治家らしき人物数人が向かい合っている。

卓上に並ぶ豪華な食事はほとんど手を付けられていない。

角元
(ひとりテンション高く身を乗り出しながら)
次もうちにお任せいただければ

政治家1
.....結局、政治っていうのは人ですから

政治家2
我々にとっていちばん大事なのは、誰と付き合うかじゃない。誰と付き合わないか。そこを分かっていたら

角元
私、大林さんが今日本のことをいちばん本気で考えているひとりじゃないかと思うんです

大林
あのね、下品だよ君は。君が考えてなさすぎなの

角元
.....はい。仰る通りで、誠に申し訳ありません

大林
こいつはね、なんにも知らない。ダボス会議で話される世界経済の最新動向も、どんなキーパーソンがいるかも全然分かってない。未だに私が教えてやらなきゃ話にならない

角元
全くお恥ずかしい限りで.....

政治家2
大林さんとは、もちろんこれからも

角元
はい、どうかよしなに。この通りお願い申し上げます
(深く頭を下げる)

大林
やめなさい、見苦しい

政治家1
リスクリング支援はすべて御社にお任せする。その代わり、「成長戦略会議」の方では願いますよ

大林
もちろんです。学び直し。それこそ日本のためですから。みんなもっと学んだ方がいい。日本人は圧倒的に勉強が足りない。世界を見ること
(角元を見る)

角元
はい！
(深く頭を下げる)

角元
(大林に向かって)
.....それにしても、これでますます我が社は

大林
(角元に向かって)
容易くそういうことを口にするんじゃない！

角元
すいません.....！ 懼り多いことを

大林
(微笑みながら)
違う。利益を生むこの仕組みを作ったのは私だ。お前なんか容易く口にするんじゃないと言っている

角元、恐れ入るように頭を下げる。

大林
(政治家に向き直し)
ところで具体的話ですが――

16 大通り ー 昼

工事現場では村田が警備員として誘導棒を振り、一生懸命仕事をしている。

寒風が吹付け、車通りの多い幹線道路は空気も淀んでいる。

空いた手で顔を拭い指を見れば黒くなっており、続けて咳き込んでいる村田。

17 公園前 ー 夕

大きな公園脇の幹線道路を俯きながらトボトボと村田が歩いてくる。
仕事を終えヨレた私服姿。

夕陽がビルの影に沈みかける少し前、逢魔が時。

ふと村田が公園の入口に目をやると、入り口スペースあたりに小さなバンが停まっている。

簡素なバンに花々が並べてある。半分は生命力を感じさせる色とりどりに鮮やかな生花、もう半分は落ち着いた色味のドライフラワーが並べられている。一角には友禅菊。移動式花屋だ。

立てかけられた黒板には、花の名前と価格の他、"黄昏"と一風変わった店名らしき表記がある。

吸い寄せられるように近づく村田。

依子がシンプルな格好にエプロンでハサミを使い手早くブーケを作っている。

依子
(村田を見て微笑んで)
何かお探しですか？

村田
母親に……。いや、お花なんて買ったこと無いんですけど、あ……っ

村田、思い出したように財布を取り出し中を見る。お金はほとんどない。小銭をジャラジャラと漁り、数えている。

依子
小さなものでも、ご予算に応じてお作りします

村田
300……70……。すみません、給料日前で

依子
花は金額じゃありませんから。どの花にもそれぞれの美しさがあります

村田
あの、じゃあこれで
(300円を渡す村田)

依子は花を見立ててサッと小さな小さなブーケを作る。
そして村田へ手渡すと、

依子
これでどうですか？

村田
ありがとうございます。本当に、どうも

ブーケをくるくると見回す村田。ふっと微笑むと、立ち去ろうとする。

依子
.....何かあれば、思い出してくださいね

村田
(不思議な顔で)
はい？

意味深な微笑みを投げかける依子。

村田は小さなブーケを持ち嬉しそうな顔で歩き出していく。

18 スナッチャーズのアジト・部屋 ー 夕

窓から差し込む夕陽。部屋の中は簡易的な生物科学実験施設のような機材が揃えられている。

夏井が調整機材のモニターを覗き込んでいる。

時嶋が入ってくる。

時嶋

.....

夏井
(時嶋に向き直り)
カナタくん

時嶋
調整はどう？

夏井
まだ何とも言えない

時嶋
.....そうか

夏井
成功したとしても、君の望む効果があるかは分かんないよ。彼女にはポリファーマシーの危険もあるしね。そもそも.....

時嶋
本来“黄昏酵素”の効果は一度きり。それは分
かっている

夏井
.....出来ることはする。ただ、ここじゃ限界が
あるからね

時嶋
.....

立ち尽くす時嶋。夕陽を受け、長い影が部屋に落ちる。

19 病院前 ー 夕

古いが大きな病院。村田が入っていく。

20 病室 ー 夕

村田が入ってくる。4人部屋。その一角のカーテンで囲われた中に入る村田。

村田洋子（73）が寝ている。管が刺されており痩せ細っている容姿は末期を思わせる。

穏やかな寝顔から、村田が入ってきた物音で目を覚ます洋子。

洋子
（力なく）
.....満男？

村田は小さなブーケを見せる。震えた手で受け取る洋子。

洋子
生花はダメじゃなかったかしら

村田
え？ そうなの.....

洋子
まったく満男は何も知らないんだから。それに
あんまり好きじゃないの.....。まあいいわ、そ
れよりね

村田
うん

洋子
いま、夢を見てたの、満男が小さいときの

村田
そう

洋子
ボク、お母さんを真っ赤な車に乗せてあげるか
らね、って。今でも夢に見ちゃって

村田

.....

洋子

お花もいいけど、お母さん乗りたかったわ

村田

またそれ.....

洋子

(ふっと微笑んで)
でもここのお金も大変よね.....

村田

それは.....仕方ないよ.....

洋子

お母さんがこんなことにならなければね

村田

そんなこと言うなって。きっと治るよ

洋子

はあ。家に戻りたい。みんなで居た頃は良かった。満男もあんな風に普通の家庭を持ってくれるって思ってたけど

村田

普通.....

洋子

あの家が残ってれば.....ごめんね
(咳き込む)

村田

それはもういいって

洋子

満男。真面目にやっていたら、必ず神様は見てくれるから

村田

.....真面目にやっただけじゃこっちには見向きもしないよ。母さんだって分かるだろ

洋子

.....いつかきっと、見てくれるの

村田

そんなこと.....
(自嘲気味に笑う)

それきり会話は続かず、黙り込む村田。

40畳はありそうな広いリビングの窓からは、東京の夜景が一望できる。
ソファでガウンに包まれ高いワインをスワリングしている大林。
そばに家族の姿はない。

ドレス姿のバイオリスト2人が広いリビングの端に立ち、大林のためだけに優雅な曲を演奏している。

テーブルのスマホが震える。手を上げ演奏を止める大林。通話に出て、

大林
なんだ？ ああ、その件はいい。そんなどうでもいいことで連絡をしてくるんじゃない。労働者の話より、会社の利益の話をしる

22 路上 ー 夕

仕事終わりで警備員服を着崩している村田がスマホを見ている。
スマホのメールには次回の仕事場所の連絡が来ている。

村田
え？

23 路上 ー 夕、少し後

普段着に着替えていて誘導棒がはみ出たバッグを持ち、歩きながら電話をしている村田。焦っている様子。

村田
今度のお仕事なんですが、2級の資格が無いと警備できない場所じゃないですかね。何かの間違いなのかなと

顔をしかめて電話を聞いている村田。

村田
ええっ。いや、そう言われても、万が一何かあったら……。法律の決まりですし

電話を切られた様子で、立ち止まり困り顔の村田。

24 株式会社みさき警備・外観 ー 夜

小さな雑居ビル。村田が入っていく。

25 株式会社みさき警備・中 ー 夜

狭いスペース。古い内観。雑然とファイルなどが並ぶ棚。奥には警備員服や誘導棒のストックが見える。

小さなテーブルでやる気のなさそうな社員が村田と対峙している。

村田
先ほどの次の仕事の件ですけど.....

社員
ちょうどよかった。それはもういいです。こちらの不備でした。それよりこれを

社員がずっと差し出した書類。そこには契約不更新通知書と書いてある。

村田
え？ えっ.....！？

社員
このところこちらも仕事が減ってましてね

村田
だからってそんな急に。確か、30日前通知が

苦々しい顔で小さく舌打ちをする社員。書類をより村田の側に押し出す。

社員
こっちだって色々事情があるんですよ。今まで散々調整して仕事をお願いしたんですし

村田
困りますよ.....！ 何かしましたか！？ まさか、さっきの件.....

社員
(うんざりした顔)

村田
(立ち上がり)
そ、それはそちらが悪いんでしょう！？ 面倒くさいやつって思ったんですか！？
(かぶりを振り)
それは無い.....、それは無いですよ

社員
いやあ、とにかくもう契約終了なんで、これ以上お話できないんですよ。わかりますよね？ お疲れさまでした

村田
(自嘲する笑みを浮かべ)
はは.....

26 路上 一 夜

ガックリと肩を落とし歩く村田。

スーツ姿で忙しそうに仕事と思わしき電話をしながら歩いてくる会社員を避け、道の端を歩く。

笑顔の家族連れと目が合うと、バツが悪い顔で自分からサッと視線を外す。

27 株式会社みさき警備・社員寮・村田の部屋 ー 夜

寮長が部屋の様子を確認している。

元々少なかった物は全て片付いている。

村田は大きなボストンバッグひとつを持ち立ち尽くしている。

寮長に言っても仕方がないと、諦め顔の村田。

寮長
はい、じゃあこれでね。急だったけど、ほとんど物が無かったから綺麗だね

村田
.....お世話になりました
(頭を下げる)

寮長
.....村田さん真面目だから、なんとかなるよ

村田
.....

28 小さな公園 ー 夜

ベンチが埋まっており、ポツンと公園の遊具に座りながら、スマホで「最安 敷金礼金無し」などと検索している村田。

29 小さな公園 ー 夜、少し後

スマホで話している村田。

村田
明日からすぐでもいいですか！？ 助かります。寮で慣れてますから、シェアハウスは大丈夫です。38,000円、はい、はい

話しながら頭を下げています。

30 コンビニ ー 夜

ATMを操作する村田。

貯金額の表示は5万円ほど。全額を引き下ろす。

その横のラックには、赤い車が表紙のレンタカーの広告冊子がある。

見入る村田。手を伸ばすが取るのを止めたため息をつく。力ない笑みを浮かべる。

31 病室 ー 夜

村田が洋子の夜間面会に来ている。

洋子は顔も青白く、より一層病状が進行しているように見える。

村田
会いたって、何？

洋子
.....車は？

村田
母さん.....
(うんざりした顔)

洋子
最後に赤い車に

村田
こんな身体で無理だよ、それにこっちだっ
て.....!
(イライラした様子で、言いかけた
言葉を飲み込む)

洋子
そう.....

村田
また来るから、じゃ

洋子
負けないで頑張りなさいよ、真面目にすれば

振り切るように立ち去る村田。

32 繁華街 ー 夜

駅近くの繁華街。楽しそうに歩く若者たち。

大声で話し、笑っている飲み会帰りと思わしき盛り上がる男女のグループ。

力なくトボトボと歩き、キョロキョロしている村田。

人の姿は多いが、誰も村田のことは気にもとめない。

33 ネットカフェ ー 夜

村田がカウンターに来ている。他に空きを待っているカップルや、1人で来ている若い女性が村田に視線を向ける。辺りを気にしている村田。

やる気のなさそうな男性店員が答える。

店員
今満席っすね。ちょっといつ空くかは.....

既に待っている客が何人もいる。若者が多い。

居たたまれず、そそくさと出ていく村田。

34 別のネットカフェ ー 夜

次のネットカフェに来ている村田。

別の店員
すいません、満席となっております

出ていく村田。

35 小さな公園 ー 夜

村田はトボトボと疲れた顔で、結局先ほどの小さな公園に戻ってくる。

ベンチに腰掛ける。ベンチには真ん中に仕切りがあり、横になって寝ることを拒絶している。

腕を組み、座って寝入る村田。

36 公園 ー 深夜

夜が更け、犬の遠吠えが聞こえる。

深く寝入っている村田の身体が崩れ、ポケットから財布が落ちる。

37 公園 ー 朝

小さな公園の朝。

村田が目覚める。バキバキになった身体を痛そうに伸ばす村田。

公園内の自販機に向かい、何か買おうとする。が、ポケットをまさぐると財布がない！ 焦ってキョロキョロと身体中を確認する。

そして走って元のベンチへ。財布はその場に落ちていて安堵する。が、拾い上げ中を見てみると、5万円が全て無くなっている。ガックリとうなだれる村田。

村田
「なんで.....」

38 交番前 ー 昼

交番に来ている村田。警官は村田を怪訝な目で見ています。

警官
財布はあるんでしょ？ 中身だけだところらと
しても動きようが無いんですよ

村田
そんな.....あのお金は.....！ なんとかありませんか！？

警官
 そう言われても……。財布はあるんですよ
 ね？ 念のため聞きますが、勘違いってこと
 は？
 (怪訝そうな顔)

村田

.....

村田は警官を睨みつけながら出ていく。

39 路上 ー 昼

空っぽの財布を見つめている村田。

力なく財布を広げ、まるで神様に見せるかのように空に向けて持ち上げると、村田自身も空を見上げ、

村田
 (思わずフツと笑い)
 もう勘弁してくれよ.....

何かを期待したわけでもなく、村田はため息をつく。

村田はふと、路上伝言板の炊き出しの告知を見つける。

40 スナッチャーズのアジト ー 夜

モニターでは大林がニュース番組で話をしている。

大林
 日本はいい国ですよ。勉強しようと思えばできる。少し働くだけで車も買える。ロスト・ジェネレーション？ 失った20年？ 歳月を奪われた、だ？ そんな文句を言う人は、ちょっと考え直した方がいい

大林の高笑いが響く。

時嶋は読んでいた本（『ヘルマン・ホイヴェルス著 人生の秋に』）の手を止め、画面を見る。

その傍ら、夏井は気にも止めずシャーペンを走らせ生物科学方程式を書いている。

浅暮はスキットルをチビチビと呷っている。大林の持論に呆れ顔。

依子は、ヨガウェアとヨガマットでストレッチに励んでいた。

依子
 (嫌悪感を浮かべ)
 気分が削がれるから変えて

時嶋
 (モニターを見つめながら)

.....

41 公園 ー タ

大きな公園に炊き出しの列が出来ている。疲れた顔の年配の男性が多く見られるが、若者もいる。皆押し黙って列を作り順番を待っている。

列の途中で並んでいる村田。

「生活相談」「医療相談」などと大きく張り出されたコーナーも見える。

村田
なんでこんな.....

独りで文句を言いながら並んでいる村田。村田の番が近づいてくる。

炊き出し担当
すいません！ あと1人分で終わりになります

村田の後ろに並んでいる老人が、うめき声を上げ苦しそうにしている。

村田
？
(老人へと振り返る)

老人
ううう、苦しい、死にそうだ.....。
(苦渋の顔で、でも大きな声で)
苦しいーっ！ 腹が、腹が減りすぎてっ！

村田、目の前の美味しそうな芋煮を見て、苦渋の決断を迫られた顔。一歩踏み出そうとするが、俯き振り返り、

村田
どうぞ.....

村田、老人に順番を譲る。

42 公園 ー タ

手洗いの水道で水を勢いよく出し、ガブガブと飲んでいる村田。

先程の老人が近づいてくる。

村田は水道を止め、老人を見る。

老人
なんでこんなところ来てる

村田
.....

老人
さっきは助かったよ

村田
.....

老人
初めてだろ、顔見りゃわかる。俺だって昔は上
場企業で人事部長だ、見えないだろ？

村田
.....何を間違ったんだか

老人
ダメになるときはそんなもんよ、この社会には
安全網が足りてねえ。一度落ちれば真っ逆さ
ま。スカスカだ
(指の隙間からザルのように落ちる仕草)

村田
仕事も住まいも、無くなって.....

老人
.....でもおめえさん、最後の一杯を譲ってくれ
たじゃねえか

村田
.....

老人
人間性は無くしてねえだろ

村田
そんなものがあつたって.....。飯は食えないし

老人
それじゃ.....代わりと言っちゃなんだが

村田
代わり？

老人
もし全てを捨てても晴らしたい恨みがあつたら
な、黄昏の花屋に行きな。あそこで一輪買うん
だよ、友禅菊を

村田
花屋で、友禅菊.....

フラッシュ

依子
.....何かあれば、思い出してくださいね

フラッシュ終わり

老人
この界限じゃ有名だ。さっきはありがとな

老人は去っていく。

村田はぼかんと老人の後ろ姿を見ている。

43 株式会社ペルソナ・会議室 ー 昼

広くて綺麗な会議室。

真剣な面持ちでペルソナ上層部のメンバーが座り、その対面に政府関係者が座っている。その前で、大林と政府の担当がガッチリと握手。

政府担当者
それではよろしく申し上げます

大林
厚い書類より、熱い握手。我々は刎頸の友ですから。外野の声なんか放っておいてね

政府担当者
ははは、さすが大林さん、胆力がある

大林
3000億円事業ですよ。やれることをやりますよ、それが我が社のため、いや、日本のためだ

政府担当者
フッ、どうかよろしく申し上げます

大林
何も心配することは無いです。いつものように

大林と政府担当者が高らかに笑う。

44 高架下 ー 昼

川に近い高架下。

雨除けのため高架の下、支柱にもたれて座りながら、村田はただボーッと、付近の小石を拾っては投げている。

ふとスマホを見ると、病院からの着信が何件も残されている。

ハッと思い当たる深刻な顔の村田。

45 病院・病室 ー 夕

走って病室に入ってくる村田。

部屋には洋子を取り囲むように、三橋敦美（68）と三橋圭佑（36）が居る。

敦美
満男くん？ 遅かったわね.....ついさっき

村田
おばちゃん.....

三橋と一瞬目を合わせるが、村田は洋子に駆け寄る。

村田
母さん……！

村田は洋子の身体にすがり、狼狽える。洋子は既に事切れている。

村田
母さんっ……

ひとしきり顔を埋め母親への想いをぶつけた村田がふと見ると、先日渡した小さなブーケが、病院関係者には見つからないようひっそりと大事そうに、横机の引き出しに入っていた。引き出しは見えるように開いていた。ほとんど枯れてしまっている。

数々の貴重品や思い出の品が入っている引き出し。村田が幼い頃書いたと思われる家族の似顔絵、小学校時代の皆勤賞の賞状、バイトリーダーの優秀賞写真など、大したものはない。どれも広げて乱雑に積み重なっており、先ほどまで今際の際に見ていたと思われる形跡。

その中に、雑誌から切り離した古いページがある。
「大人になった息子と 2人の時間を振り返る旅」という特集。
中年の息子が老いた母親を助手席に乗せ運転する写真。
「昔のように親が計画を立て、息子さんを主役にしましょう」とある。

それをただ見つめることしかできない村田。
黙って見ている敦美と三橋。

余韻もなく、病室に看護師が入ってくる。

看護師
ご家族の方ですか？

46 病院・相談室 ー 夜

テーブルの上には死亡診断書があり、座って向かい合っている村田と医師。その隣に看護師。

看護師が神妙な面持ちで説明している。

看護師
こちらでご紹介できる葬儀会社もあります
が……

村田
えっと、いくらくらい……

看護師
そうですね、火葬から葬儀までで安いところで
したら15万円……

村田
それは……

膝の上でギュッと拳に力を込める村田。

47 病院・廊下 ー 夜

廊下の椅子に、敦美と三橋が座っている。

近寄ろうとする村田。話し声が聞こえてくる。

敦美
昔は満男お兄ちゃんって、よく遊んでもらってたでしょ？

三橋
昔だろ。さっきもさ、匂うし

立ち止まる村田。

三橋
葬儀費用だって無心されたらどうする？

敦美
そうねえ、姉さんのことだからどうにかしたいけど.....癖になったら困るし

情けなさに思わず笑みを浮かべその場を立ち去る村田。

48 病院・ロビー ー 夜

村田がトボトボと背中を丸めやってくる。

まだ待っている病人がいるロビーでは、大きなモニターに対談番組が映っている。映っているのは大林。

司会者
派遣切りと呼ばれる問題や非正規雇用社員が増えたことによる経済格差はロスジェネと呼ばれる世代を生み出し、今なお問題とされています

大林
(語気を荒げ)
それは違います。ハッキリ言いますよ。負け組は努力してこなかったんだ。
(カメラに向けて指差し)
それを責任転嫁するなんて、思い上がりも甚だしい。いい加減にしろ！

村田はワナワナと震え、拳を握りしめている。

大林
やることをやってこなかった。自己責任、自業自得の極みでしょう？ そんな人達に目を向ける暇がありますか？ せめて邪魔をするなど言いたい

村田、怒りに震えてその場を離れる。

ロビーの一角にあった売店の雑誌が目に入る。経済雑誌の表紙に大林の笑顔。

村田
(嗚咽混じりに絶叫する)

村田は奇声を上げ、何冊も置かれているその雑誌の表紙を破り、床に叩きつけ踏みつけてグシャグシャにする。

呆気にとられる売店の店員。

肩で息をする村田。

49 葬儀場 ー 昼

火葬場。最安値の簡易的な直葬。火葬台の前には洋子の写真が一葉飾られている。

喪服でもなく普段着で立ち尽くしている村田。

50 大通り ー 夕

空は淀んでいる。

普段着で骨壺を持ち、狭い路側帯をあてもなくただフラフラと歩いている村田。

真っ赤なフェラーリが後ろから迫る。

その轟音に気を取られる村田。

大きなクラクションが鳴らされ、村田の横ギリギリを通り過ぎていく。村田は思わずよろけてしまう。

その瞬間、村田は運転席の人物を見た。

確かに大林であった。

そのまま村田は転んでしまい、骨壺収納箱を派手に落とす。収納箱の蓋が取れ、骨壺は割れ、遺骨が辺りに散らばってしまう。無惨に転がる骨壺の破片と遺骨。

フラッシュ

洋子
ボク、お母さんを真っ赤な車に乗せてあげるからね、って。今でも夢に見ちゃって

フラッシュ終わり

村田はへたり込み、散乱した遺骨を見つめる。

声を上げて泣く村田。

遠く去っていく真っ赤なフェラーリを見ながら、

村田
おれが、おれが見えないのか.....!

夜の大通りでは、その声さえ行き交う車の音でかき消されていく。

這いつくばったまま、怒りに身を任せ拳で血が滲むほど何度もアスファルトを叩く村田。怒りと無力感と悔恨が入り混じり、涙と鼻水を垂らしながら。

ふと横を見ると、道路脇には雑草が小さな花を付けている。

フラッシュ

老人
もし全てを捨てても晴らしたい恨みがあったら
な、黄昏の花屋に行きな。あそこで一輪買うん
だよ、友禅菊を

公園に止まっていた不思議な移動式花屋と依子の姿。

フラッシュ終わり

村田は這いつくばったままだれなだれた様子で遺骨を拾い上げ集めると、割れた骨壺のまだ壺状を保っている部分に何とか納め、溢れないよう抱きかかえ起き上がる。

51 公園前 ー 夜

以前花屋を見かけた大きな公園前まで村田が決死の形相でやってくる。割れた骨壺を抱えながら。

村田
.....居た

既に夜も更けているのに、移動式花屋黄昏のバンはひっそりとまだそこに止まっていた。

バンの中の照明が淡く花々を照らし、幽玄な雰囲気醸し出している。

依子がただじっと佇んでいる。

村田が近づき、陳列の片隅にあった友禅菊と札のある菊に手を伸ばす。

村田
友禅菊.....。これを、一輪

依子
それをお選びに.....。何を捨てても、晴ら
したい恨みがおあり？
(フツと微笑み)

村田
.....ああ

村田はポケットをまさぐり硬貨を出す。だが、数10円程度のお金しか無い。

依子
お金は要りません。その代わり.....

村田
その代わり？

依子
行きましょう？ 覚悟がおありなら

友禅菊を持つ村田に、妖艶に微笑む依子。

52 雑居ビル屋上 ー 深夜

小さな雑居ビルの屋上。周りにも猥雑に雑居ビルが立ち並ぶ狭い空間。

緩やかに風が吹いている。

時嶋、夏井、浅暮が高い位置に立っている。

その前に並んでいる依子と村田。村田は割れた骨壺を大事そうに抱えている。

村田から受け取った友禅菊を一輪持ちながら

時嶋
大林煌三。人材派遣会社ペルソナ社長か

村田
本当に恨みを晴らしてくれるのか？ どうやって？ まさか.....

時嶋
.....俺たちは殺さない。ただ奪う。対象の年齢を

村田
年齢を.....そんなことが.....

夏井
ある酵素。薬と言い換えてもいいよ。それを打ち込まれた人間は、テロメアエフェクトと呼ばれる急激なテロメア短縮とアロスタティック・オーバーロードにより、細胞がヘイフリック限界を迎えると同時に急激な老化が起こる

村田
.....？

時嶋
だが、なぜそんなに.....？

膝を付き座り込むと、割れた骨壺を横に置き、その無惨な姿を見つめる村田。

やがて顔を上げ、話し出す。

村田
踏ん張って踏ん張って働いて、気付いたらもうこんな歳だ。ただ普通の人生を送りたい。そう思ってたのに、もう何も残っちゃいない.....

時嶋
.....

村田
 (突っ伏して地面をたたきながら)
 全部俺が悪かったのか!? 俺だけが!? 努力が足りなかったのか? ずっと、ずっとただどうにかなると思ってやってきた。いつか報われると信じて。でもあいつは.....!

時嶋

.....

村田
分かってる。どうしようも出来ないってことは。分かってるんだ。でもせめて、あいつに知らしめたい。こんな人間がいるってことを。俺を、俺たちを見ろと.....! 省みてみると.....! うう.....

時嶋

.....分かった、やろう

村田
 (顔を上げて)

.....

時嶋
 その代わり、代償を払ってもらおう。.....覚悟だけが人を撃つ。20年だ。20年の歳月を貰う

村田
どうせ元から失われた人生、俺の20年で思い知らせることができるなら、安いもんだ
 (自嘲気味に笑う村田)

高いところからサッと降りる時嶋。村田へと迫り.....

時嶋

契約だ

村田視点で、村田へと迫り来る時嶋の手。時嶋の暗器が迫り、その先端がキラリと光る。村田の身体へと突き立てられていく。

村田

ああ.....

村田の視界がぐにゃぐにゃと歪み、目の前の時嶋、周りの雑居ビルのネオンなど、目に見えるすべてのものが色褪せていく。

53 雑居ビル屋上 ー 深夜、少し後

村田は居なくなり、時嶋、夏井、浅暮、そして依子が残っている。

時嶋

あらかじめ失われた人生、か.....

依子

あの人も、年齢を奪われたようなものね

周辺を見渡せる屋上にはただ風が吹いている。

54 東京の夜 ー 深夜

東京の街は眠らず輝いている。

55 帝国ホテル・孔雀の間 ー 夜

広いホールの前方には「株式会社ペルソナ・東京都 提携記念パーティー」と書かれた大きな横断幕が掲げられている。

政治家や産業労働局などの都職員、関連企業、ペルソナの社員など数百人が参加している。

大林が政治家と見られる人物と笑顔で握手や立ち話をしている。そばには角元が居てペコペコと頭を下げている。

スーツ姿で潜り込んでいる時嶋、依子、夏井。浅暮。大林が見える位置。グラスを片手に辺りを見回している。

グラスを運ぶスタッフに声をかけられる浅暮。スキットルで飲んでいる。

スタッフ

君.....それは.....

浅暮

(笑顔で)

ジュースです。お父さんが職員で、見学に来て
って

スタッフ、不思議な顔をしながらも去っていく。

夏井

(オレンジジュースを飲みながら)

村田の話、逆恨みじゃない？ やるにしたって

浅暮

.....10年そこらしか生きてないお前にはわから
ん

依子

(時嶋に向かって)

迷いは無いでしょうね？

時嶋

.....

大林と政治家の話が聞こえてくる。

大林

そうなんですよ、何故か私を悪者に仕立て上げ
ようとする奴らがいましてねえ。失われた30
年？ その間お前らが私の邪魔をしたんだらう
と

政治家
むしろ大林さんの思う通りに行かなかったと

大林
そう、フリーターとか非正規だとか。選んで這い上げられなかったのは自分たちのせいですよ？ それをギャーギャー喚いて。ウチが無ければどうなったことか、感謝をしろと

時嶋
(大林たちを見ながら)
既に契約は済ませた。あとはやるだけだ。
.....あの時から、こうやって力を使うと決めた

浅暮
.....しかしありゃ私設ボディーガードか。こんな場でも用心なこと

大林の少し離れた位置から屈強な男たちが目を光らせ隙なく見張っている。

依子
確かに、難しそうね

浅暮
だからお前が早く遠距離でも打ち込めるように改良すりゃ。撃てば一発なんだよ

夏井
酵素に影響が出るからそれは無理だと言ったけど。ボケた？

時嶋は角元に注目している。

時嶋
一週間後だ

56 点描・計画を準備するスナッチャーズ ー 夜

メガネを掛け髪をまとめ、ピシッとしたスーツで株式会社ペルソナに入っていく依子。

酵素の調整を続けている夏井。

炊き出しに顔を出し、笑顔を振りまいている浅暮。

雑念を振り払うようにワークアウトに励む時嶋。

57 スナッチャーズのアジト ー 夜

子供番組のかわいいキャラのお面を手に取り、フードを被る時嶋。

アジトを出ていく。

58 高級個室サウナ ー 夜

内装が高級感のあるサウナ。

59 高級個室サウナ・廊下 ー 夜

お面を被り、フードを被った時嶋が廊下を一直線に突き進んでいる。

依子 (o.s)

大林は週に2回、どんなに忙しくても必ず1時間そこで汗を流す。その時は人を寄せ付けない

部屋のドアを開け中に入る時嶋。

60 高級個室サウナ・個室 ー 夜

広い個室のリクライニングにサウナ着1枚で大林が横たわっている。

お面姿の時嶋が入ってくる。

大林

なんだ？ まだ時間じゃないだろ

時嶋

.....お前の年齢を奪う

大林

は？ 乱入者か、おいっ！

大林が声を上げると、僅かな間で屈強なボディーガード2人が部屋に入ってくる。

時嶋に注目するボディーガード2人。

大林

憎まれていることぐらい、私も知っている

時嶋、辺りを見回す。

大林

私を付け狙う不届き者だ。早くどうにかしろ！

ボディーガード達がジリジリと時嶋に近づく。

時嶋

.....！

タイミングをはかり、猛烈な勢いで飛びかかってくるボディーガード。

時嶋は飛び込んでくるボディーガードを1人かわし、もうひとりと取っ組み合う。そして体術で負けずに制すると暗器を突き刺す。

そしてもうひとりのタックルを受けながらも逆に体制を立てなおすと、素早い身のこなしでもうひとりにも暗器を刺す。

倒れ込むボディーガード2人。

時嶋
麻酔と軽度の記憶障害だ、命は奪わない

再び大林に近づく時嶋。

大林
っ……。年齢を奪うとは何だ？ 大体、なぜど
いつもこいつも私を恨む！？

時嶋
それが分からないからだろう？

大林
私は、私は日本を良くしようとしているん
だ……！ 何なんだお前は

時嶋
……。晴らせぬ恨みに黄昏を運ぶ。それが俺たち
の仕事

大林
歳を奪うと言ったな……例え少くくらい歳を取
ったとしても……まだやれる、私は

時嶋
……

暗器を突き立てる時嶋。

大林
ん、がっっ……

もがき苦しむ大林。しかし歳を取るのではなく、みるみる20代の風貌へと若返っ
ていく。
たるんだ今の顔から、中年を経て顔はシャープに引き締まり……髪の毛にも艶が出
て……背筋も伸び体格も良くなり若者の姿へと。

時嶋
……。逆だ。指向性を調整した。
お前は若返る。ありがたいと思うんだな

そのショックで這いつくばるのがやっとの大林。個室の鏡には、確かに20代とな
った自分の顔が映っている。

大林
ああっ……
(まじまじと鏡を見ながら顔に手を
当てる)

大林のカバンを持ち、もう片手ではスマホをこれみよがしに持つ時嶋。

時嶋
これは処分する。お前は身分を失い、ただの若
者になる……お前が作った時代を生きてみる

そう言い残すと、時嶋はサッと姿を消す。

その場には、友禅菊が一輪だけ残されている。

61 交番 ー 夜

大林がサウナ着のまま警官に詰め寄っている。

大林
いやだから本当だって言ってるだろう！？

警官
若返った、ねえ。はいはい。まあじゃあ良かったんじゃないの？ こっちも忙しいんでね。大体その格好は何？

大林
これは.....

警官
(大林の肩を持ち回転させ)
はいはい、酔いを覚まして明日からも仕事頑張
って。若者は真面目に働くこと

押し出される大林。

62 株式会社ペルソナ・受付 ー 朝

大林が受付にまくし立てている。

大林
だから、入館証は無くしたが私だ。分からんのか！？

角元が社内からやってくる。

大林
おお、角元、おい！ 私だ

角元へとすり寄る大林。

角元
社長は海外出張中だ。それに、このところ社長を騙る不届き者が戯言を言っていると聞いている。絶対に入れるな！ 関係各所にも通達済みだ

大林
貴様っ.....！

角元
出て行け不届き者！

大林が警備員につまみ出されていく。

大林
私が誰だか分かっているのか！ 止めろ！

その姿を見て、ニヤリと微笑む角元。

63 (回想) バー ― 夜

話し込んでいるスーツの依子と角元。

角元
悪い話じゃないな
(口の端を歪める)

64 高級タワーマンション入り口 ― 朝

エントランスで大林がインターホンにまくし立てている。

大林
私だ、キーを無くした、開ける！！

大林の妻の声
角元さんから大林煌三を名乗る不審者が現れた
と聞いてますから。失礼します

冷たい声。部屋との通話が切られる。

大林
どいつもこいつも！ クソ！

タクシー運転手が入ってくる。

タクシー運転手
お客さん、困りますよ。払ってくださいよ

走って出て逃げていく大林。

タクシー運転手
あ.....！ ちょっと！

65 公園 ― 夜

公園のベンチで寝ている大林。仕切りがあり、横になることができず苦しそうな顔で目を閉じている。

66 東京 ― 夜

労働者たちが、様々な現場で働き東京を支えている。

67 建設現場 ― 昼

日雇い労働者の多い現場。過酷な作業が行われている。

68 建設現場 ― 昼

大林が重い資材を運んでいる。

大林
何で、こんなこと.....クソ、重いつ

現場のリーダーが村田を呼ぶ。

現場リーダー
村田さん、こっち、新入りと一緒に

64歳まで老け込んだ村田がやってくる。

フラッシュ

雑居ビル屋上。時嶋に暗器を突き刺され、急激に44歳から64歳に変化していく村田。疲れている壮年の顔から、今以上に顔がたるみ、髪は白くなり、老人のそれへと変化していく。それでも満足気に微笑んでいる村田。

フラッシュ終わり

大林
(村田を見ながら)
何で私がこんなことをしなきゃならん

村田
さあ、努力が足りなかったとか？

大林
何だと.....

村田
あんた、自分がしてきたことを、苦勞を重ねる人々を一度でも省みたことは？

大林
何を言ってる.....

現場リーダー
そこの2人、私語禁止、サボるな！！

慌てて作業に戻る大林。

69 点描・建設現場～ネットカフェ

必死で汗を流し働く村田、嫌々働いている大林。

休憩時間に座って愚痴をこぼしている大林。

大林
何でこんな仕事を人間がやってるんだ、ロボットにやらせればいい

村田
じゃあ何でここにいる？ 誰がビルを建てるんだ？

大林
.....

給料を取っ払いで貰っている大林。

大林
こ、これっぼっちか!?

ネットカフェで窮屈そうに寝ている大林。大きないびきをかいており、隣から壁ドンされる。目を覚まし苦い顔でまた寝る大林。

働いている大林。若い身体でも慣れない重労働がたたって、身体中を痛そうにし
ながら作業をしている。今日も不満をブツブツと口にしている。

作業管理者から声をかけられている大林。

作業管理者
お前さ、もう来なくていいよ。毎日文句ばかり
り言いやがって。じゃあ他に行け

大林
いや、そんな、生活はどうする!? 急に切ら
れたって、どうしたらいい.....

作業管理者
自業自得だろ、お前みたいなやつ

そこへ村田がやってくる。

村田
ご愁傷さま

大林
何でこんな奴らが残って、私が切られるん
だ! だいたい私はこんなところで働くような

村田
(拳を握りしめ震えながら)
いい加減に.....、真面目に働く労働者を馬鹿に
するのもいい加減にしろ!

その迫力に腰を抜かす大林。見下ろす村田の真剣な面持ち。

村田
決まった家もなく、明日の食い扶持と仕事の心
配で夜も寝れない。そんな労働者の気持ちが分
かるか!? 分かってほしいことは!?

大林
.....

大林、呆気にとられるが、キッと村田を睨みあげ

大林
負けん、私は負けんぞ.....。いつだって、時代
は勝者が作る。いつだって、改革には痛みを伴
うんだ。.....今度こそ

大林、立ち上がろうとするが、連日の寝不足や疲労がたたって立ちくらみを起こし、砂利の上に勢いよく受け身も取らずそのまま倒れ込む。

大林
 (砂利に勢いよく倒れて顔や体を擦りむき)
 ぐっっ.....痛っ。クソ.....

そこへ差し出される手。村田の手。

村田

.....

大林
 (その手を掴み立ち上がると)
 フンッ

服をはらい、立ち去っていく大林。その姿を見て、仕事に戻っていく村田。

肩を回し、少しでも疲れを取ろうとする。

村田が現場の方へ歩いていると、後ろから小突かれて振り返る。

大林が立っており、村田に向かって自販機の缶コーヒーを差し出す。

村田
 (不思議そうに受け取って)

.....

大林
 これで本当に何も無くなった、か.....

大林が去っていく。その姿を見つめている村田。

その2人の姿を離れていたところから見ていた時嶋、依子、夏井、浅暮。

時嶋
 思い知るだろう。今の時代に若者で居る苦勞を。これで少しは"今"だけじゃなく"未来"に目が向くはずだ。やり直すチャンスはまだある

去っていく4人。

70 特別養護老人ホーム菊光園

郊外に建つそれなりの特別養護老人ホーム。

71 菊光園・フロア ー 昼

加湿が効いており清潔感のある居住フロア。廊下に各入居者の部屋があり、一角にはテーブルと椅子が並びテレビがある憩いのスペースがある。カウンターと簡単な水場があり、その奥がスタッフ室となっている。

廊下にいた望月清(86)が大声を上げている。

望月
 お前がワシの昼飯を取ったんか!

職員の見沼貴子（38）と加賀沢茜（25）が逃げてくる。

見沼
ちょっと、ちょっと来て、時嶋くん！

時嶋が職員の間でカウンターの奥から顔を出す。

時嶋
はい、大丈夫ですか！？

見沼
また望月さんが暴れてるのよ

時嶋
（タオルで手を拭きながら）
ああもう、はいっ！ 任せてください

時嶋が望月の方へ飛んでいく。

貴子
ほんと、時嶋くんってよく働くわ、嫌な顔せず。なんか達観してるっていうか

茜
ですねー。あ、でも最近入所された本堂さん？
あの人相手には何か特別ですよ

貴子
そう！ 何なのあれ！？

時嶋が戻ってくる。望月は落ち着いている様子。

貴子
時嶋くんありがとう。ほんと助かる。でも、ああいうふうには歳取りたくは無いわね.....

茜
うんうん

時嶋
誰だって歳は取りますよ。真っ当に歳を取るなら、それでいいんです

時嶋がまたその場を離れる。

不思議な顔で見合わせる貴子と茜。

72 菊光園・廊下

「本堂小夜子」とネームプレートのある個室に入っていく時嶋。

73 菊光園・小夜子の個室

時嶋が入ってくる。

簡素な8畳程度の部屋。

ベッドと、ベッド際に設置されたテレビ。プラスチックのタンス。

本堂小夜子（肉体年齢94/実年齢28）がベッドで寝入っている。いつ天に召されてもおかしくないような、衰弱した骨と皮だけの姿。寝入っている様子。

胸元には、老婆には不釣り合いな赤いペンダントが見える。

時嶋はベッドに近づき、跪いて小夜子の身体を愛おしそうに擦ると、頬に口付けする。

時嶋

小夜子.....

そして、時嶋は小夜子の手を取り、手を重ね合わせ祈るような格好。

やがて立ち上がると、タンスの中に伏せてある写真立てを取り出して見る。

そこには、小夜子（25）と時嶋（25）の私服のデート時の写真が映っていて、そのアップ。胸元に光るのは、目の前の小夜子と同じ赤いペンダントで――。

（1話完）